



拾遺和歌集

下

拾遺和歌集 下

都留文科大学附属図書館所蔵

拾遺和歌集卷第十一

恋一

天曆清時之命

壬生忠見



天曆清時之命
備前守
天曆清時之命
備前守

恋一
天曆清時之命
備前守
天曆清時之命
備前守

平魚之り

中臣等曰左等
情別備也
天曆清時之命
備前守

恋一
中臣等曰左等
情別備也
天曆清時之命
備前守

恋一
中臣等曰左等
情別備也
天曆清時之命
備前守

恋一

平公誠

中臣等曰左等
情別備也
天曆清時之命
備前守

恋一
中臣等曰左等
情別備也
天曆清時之命
備前守

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

源重之
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

あつたてのうらみ
あつたてのうらみ
あつたてのうらみ

平行時

市役部人... 大納言...
あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

在臣業平朝臣

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

源公忠朝臣...
源公忠朝臣...

あな... 大納言...
あな... 大納言...

有りては... 貫之

玉の... 貫之

讀人 不知

凡... あり

忠厚... 大細... けり

法... あり

動... あり

何... 歎... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

何... あり

あやかし

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

物の夜は月をよみてあやかしけり人なりきりて

糸織院時清彦の月十五夜月夜あやかし

平魚盛

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

源

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

中務

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

百十一
五三三
五三五
五三五

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

中官内侍

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

中官内侍

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

あやかし月夜をよみてあやかしけり人なりきりて

人まほ

六世
六世の御孫

おのれはついでにまされりては
春宮左近

日蓮の御孫

あはれに夜をこえても
と原人

日蓮の御孫

夜に申すはりては
長き夜をこえても

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

日蓮の御孫

いふはついでにまされりては
いふはついでにまされりては

若代の習ゆるまゝをむさひ存心せしむるなり 源頼光

百二十四所抄巻三

我らもいづれかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

源頼光

百二十五所抄巻三

いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

源頼光

百二十六所抄巻三

いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

女のまゝにけりしにけりしこそ人の心ん

源頼光

百二十七所抄巻三

中へいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

百二十八所抄巻三

いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

百二十九所抄巻三

いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
結ぶよりいふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん
まはれしきりしにけりしこそ人の心ん
いふかたしあはれしきりしにけりしこそ人の心ん

源頼光

拾遺和歌集卷第十五

恋五

杜若歌記云安永元年九月廿二日陽成天皇皇母後宮主上
皇女守善宮法師法親王通三何之曾伯法王師配座
御三詔所

善法法師より海國の人の流るる母の心づくる

海國の人の流るる母の心づくる

人まら

信吉れ名もむる言法路もわかれ君を以てぬるあは

淡人まら

控もそ人命を今に控もぬるを今にぬるのみそを

以てちあへるれんものしきわたりしあはれは

とてそとてしはあはれん時を人さしのゆき

何首よりあはれの中よりあはれは人まら

有へあはれもあはれの中へ中へあはれもあはれ

情もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

よの中へあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

人まら

恋するもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

重之

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

大中臣能宣

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

あはれもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれ

五三歌

海とてんは流れてゆくものなりとてはなほ物に海をりたり
我も物なりとてはなほ人今も未だはなほ物に海をりたり

坂上郎女

五輪はまのついでにまのついでにまのついでに
海にまのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに

藤原公時

そなたはるる路に人よきまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに

淡人

そなたはるる路に人よきまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに

件
ついでに

ついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに

兼光

人よきまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに
まのついでにまのついでにまのついでに

件
ついでに

拾遺和歌集卷第十六

雜春

歌三十一

九河内躬祖

春をたもてし心さうきくして心すこくきあはれそいふ

淡人三十一

ついでに死年いふはしつりて我身はた能くつら

右近

新しき年の初めにも思ふはたうきき人なはつり

北宮屋風

年をたもてし心さうきくして心すこくきあはれそいふ

紀貫之

春をたもてし心さうきくして心すこくきあはれそいふ

中務令具平親王

ついでに死年いふはしつりて我身はた能くつら

淡人三十一

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

淡人三十一

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

中納言安信三郎

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

淡人三十一

梅の念春よりさうきくして心すこくきあはれそいふ

源寛信朝信

ついでと云くついで梅宗人今以て多きをぬかんとすし

清和世のこの中此書原由ついで梅宗

大抵

源人

年毎に梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

急中ついで清和の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

源順

梅宗の書をとりて梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

小倉川の梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

人

春の梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

延和十五年

梅宗

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

小倉川

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

山里

梅宗

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

人

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

東三

梅宗

ついで梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

女

田舎流石一修屋母
入門
為
明四十

梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり梅宗の書あり

任事...
...
...

藤原長祿

子日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

引人...
...

...

...

...

...

...

...

弓削嘉言

上代 平家 隆盛 隆盛 隆盛
隆盛 隆盛 隆盛 隆盛
隆盛 隆盛 隆盛 隆盛

新 新 新 新
新 新 新 新
新 新 新 新

まはる 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

春の 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
春の 春の 春の 春の

あはれ 春の 春の 春の
あはれ 春の 春の 春の

かき 綱 法

新 新 新 新

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

あはれ 春の

年毎々春のついでに池のほとりへゆかりのつれづれに
三月のついでに春のついでに年々つれづれに
菅原補昭

春風
うつくしき

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

春風
うつくしき

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

春風
うつくしき

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

春風
うつくしき

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる
春風はゆきかきしめし
酒人の春をよめる

浮城...
...
...

...
...
...

解上のをりこもあはくくまひりりる

皇太后宮様史國字

左大臣の御申言の如く...
...
...

右大臣智名任

紫の...
...
...

後人...
...

紫の...
...
...

人まろ

...
...
...

重之

...
...
...

...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

神宗三年の事
神宗三年の事
神宗三年の事

うさま〜
さう〜
は〜
~~~~~  
平定文

新刊下

うさま〜

中官長恨奇口席風

伊勢

あしあひ

あしあひ

大はの

大はの

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

は〜

物事の〜

三輪の〜

対馬守の〜

おさう派定舟の〜

海天

その海〜

川〜

山〜

そり〜

坊〜

信正通船

〜

坊正一軒

人々

人々

人々

人々





古七 四三 出歌  
一ノコトニナリ

万葉五拾遺  
そのうち  
万葉集  
そのうち

右大板定國家の屏風

任の江の松を柱風はゆるりたる沖はきり波

歌三十一  
人まほ

柱風のそそ吹すか枝の石の海まうとまひり

秋風能日毎に竹の枝を人の足はきり

柱をまはれぬしののけの人の足はきり

追ひあつちるあつちる

すてりる松はゆるりたる

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

歌三十一

人まほ

此の松はゆるりたる

秋風能日毎に竹の枝を人の足はきり

柱をまはれぬしののけの人の足はきり

追ひあつちるあつちる

すてりる松はゆるりたる

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち

そのうち



忠見

新

秋のふりしつゝのほつとさきさきとさきさきと道なき  
安土所時直波西屋風歌 三 此の  
ふりしつゝのほつとさきさきとさきさきと道なき

さきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

歌

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

と

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

大申 臣 能 宣

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

歌

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

新

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

清原 之 禰

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

清原 之 禰

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

歌

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

清原 之 禰

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

歌

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

清原 之 禰

あつとさきさきとさきさきとさきさきとさきさきと

九月は... 源順

十月... 清原之箱

十月... 源...

十月... 源...

天曆... 中務

天曆御製

...

...

...

...

...



皇門の御水  
袖の御水

東宮女蔵人左近  
限き〜

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

皇門の御水  
袖の御水

拾遺抄前集卷第十八

雜賀

定喜二年九月中宮御扇風二之白

紀貫之

扇風

このふりとりをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

伊勢

九条大后五十賀扇風二作のりふりふりふり

元柳

ふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

たぬあきまはれぬ色もよき風とてせの春はくをくあふれふ  
ふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

東宮

東宮はるまじりのふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

すまの人

吉む

吉むはむらひのふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

つね

聖

聖のふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

左大臣

冷泉院

冷泉院五六のふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

有人の

有人のふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ

大武園  
おのふりも色もはなれぬをばよき風とてせの春はくをくあふれふ



影さし

と美人

我乃も... 愛を...

あつ... 人の...

天... 天...

...

...

...

...

清原元輔

...

...

...

...

...

...

...

...

...

昔より物心ありては  
あつたの心を  
あつた心と云ふ

昔は心や  
昔は心や

昔は心や

いふことゝ思ふことゝつけて  
元 正付

昔年より事なりては  
申すに侍多時右大臣  
白梅と折しては

白梅と折しては

源信の心を

吾夫が安資

物なりては

ひよりの新居

はつては侍りては  
よる侍りては侍りては

よる侍りては侍りては

春は心と云ふ

又書付る

春は心と云ふ

春は心と云ふ

源氏物語

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

春は心と云ふ

昔より物心ありては  
あつたの心を  
あつた心と云ふ

源氏物語





あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ

侍りの心

一条御針

あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ

あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり  
あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり

あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ

あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり  
あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり

あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ

あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり  
あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり

あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ  
あはれなればとてはなほ

あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり  
あつたりのあるまゝはゆりゆりして  
おしい侍る女はさうゆりたりゆりたり  
いかにいかに侍る女はさうゆりたりゆりたり



あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

長天將海崎のあひなりて侍る女侍くしほ侍り  
つくしりたるふき方朝信の侍る女侍り  
侍る侍るをいひ侍り侍り侍る侍る

長天將海崎の女侍

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

則忠朝信女

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

拾遺和歌集卷第十九

雜志

柿本人麿

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

平定文

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

柿本人麿

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

大伴旅法師

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

後人

あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて  
あつたてのつとむるをせむとて  
つとむるをせむとてあつたて

あわおの...  
...  
...

玉...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

ねこ...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

右 延

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

人...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...

...  
...





古くはつた...  
山科強田山  
馬掛者傳  
三浦末  
不得

以てその國を傳御上忠房朝臣はゆきまゝなり  
はし中池

奥津波...  
神

天曆御製

大まら

山科...  
春の心...  
物

坂上二郎女

あふ里を...  
仁和乃...  
大中臣頼基

惠慶法師

知り...  
海の名...  
おのり...  
おのり...  
おのり...  
おのり...

定あま...  
申...  
おのり...  
おのり...

おのり...  
おのり...  
おのり...  
おのり...



純郎女 あつり 中納言家持

名をれぬの傍りともむれしをさあきなりとれりあり  
とてこのまじり結りたり女房のそとにる傍り足  
こけて侍りす 征古 けのうまをそとをそとを  
まうてさしたるいひ侍りさより入

る傍り な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
よ な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
日蝕の時方皇太后宮より一品の な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

方皇太后宮の  
一品の  
日蝕の時

を な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
皇代の な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
女 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

後人 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

き な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

忠 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
侍 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

海 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

海  
流  
ぬ  
け  
中  
人

其 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

西 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

伊 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

後人 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

我 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人  
侍 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

乙 な へり な あり な 流 な ぬ な け な 中 な 人

乙  
侍  
中  
人





拾遺初集卷之二十

哀傷

十三日甲午時辰葬於... 初邊右大臣

扶桑略記云天曆元年十月十三日

むとをくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
こちの急とていふこと少との少くは  
小聖宮方好古居

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
平 兼盛

平 兼盛

如くはけしをけし梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
清原元輔

清原元輔

花の色はゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
大中臣能宣

大中臣能宣

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
大納言延光

大納言延光

若くはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
中納言延光

中納言延光

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
一 兼盛

一 兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛

梅急をくはゆらんやきそ又の事春梅の急なる  
兼盛





*Handwritten text in red ink, likely a title or introduction at the top of the page.*

はらやもほして母々もよりのこぬまむといはれを  
 侍り心  
 大江山暮 清原元輔

*Handwritten text in red ink.*

からみあひていとよきはねりてかへて無いま  
 年ふきんゆりゆる人へ座りておきてふらふらよ  
 歌よき心  
 清原元輔 清原元輔

*Handwritten text in red ink.*

すこしの衣に袖いせはれは酒のべは純はゆりき  
 奉 賢 清原元輔 義孝 清原元輔  
 天延二年九月十六日同りて在  
 謙徳少少のうらふれふらふらふらふら  
 あやしいとふらふらふらふらふらふらふら  
 むしに侍り人へおひきそうありふらふら  
 かけくとんぼい 清原元輔

*Handwritten text in red ink.*

そのゆるいまふらふらふらふらふらふら  
 吉原の徳左兵衛  
 伊勢

*Handwritten text in red ink.*

あはれいかにいひぬくはらふらふらふらふら  
 清原元輔

*Handwritten text in red ink.*

あはれいかにいひぬくはらふらふらふらふら  
 清原元輔







三つて

この徳人の徳をいひまうし高の徳の徳をいひまうし  
源深満推言

市と何とて人頼明に死すよの徳の徳をいひまうし  
忠運南山の徳に年々死人と法原の徳をいひまうし  
とうさたりやうとて徳をいひまうし

長福三年

源朝方朝臣

山守

山守に入るの徳に年々死人と法原の徳をいひまうし  
法原の徳をいひまうし

高世

高世の徳をいひまうし

其の中

其の中より徳をいひまうし

法原

法原の徳をいひまうし

成信

成信の徳をいひまうし

長保

長保二年二月廿四日

長保二年二月廿四日  
成信重家  
源朝方朝臣

成信重家  
源朝方朝臣

成信重家  
源朝方朝臣



蓮王天竺... 右目... 手... 子...

女院... 御製

明徳

法... 手... 子...

春宮大史... 實朝

明徳

法... 手... 子...

雅波女或部

明徳

法... 手... 子...

光明皇后山...

明徳

法... 手... 子...



大僧正行基漢少い

大僧正行基漢少い

南天竺より来りて...

法系を授けんとす... 南天竺より来りて...

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

波羅門僧正

忘上

申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

忘上 申細言作氏

備前本記... 大僧正行基漢少い



弘化三年丙午十月借抄于牛山石

藤原守業



馬

